

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価（案）

1 めざす学校像

明るく、強く、きよらかに、生き抜く力を培う学校

- 1 安全・安心して児童生徒の可能性を最大限に伸ばし、「本物」と触れ合おうとする学校 →触育
- 2 教職員の役割と責任を明確にして、「高い専門性を有するプロ」をめざそうとする学校 →職育
- 3 例年通りから脱却し風通しの良さをめざし、「次世代育成の種」を植えようとする学校 →植育
- 4 共生社会の形成に向け、「食」をトピックに保護者・地域から信頼され期待される学校 →食育

2 中期的目標

1 安全・安心して児童生徒の可能性を最大限に伸ばし、「本物」と触れ合おうとする学校 →**触育**

- (1) 環境の整備・改善、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロをめざし、子どもファーストの充実体制づくりに取り組む。
 - ア 「授業は教員の要の仕事」との意識で、PDCA サイクルを活用した、授業改善実践に取り組む。
 - イ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を更に有効に活用できるシステムの実践(カリキュラムマネジメントの確立)に取り組む。
 - ウ 「次期指導要領」の先行実践をめざし、新たな企画・実践(新スポーツ・文化・言語活動の推進)に取り組む。
 - エ 「教育環境」(ICT 関連含:タブレット、楽スタ(重力軽減訓練装置)、ロモター(電動移動支援教具)等)の充実をめざし、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロに取り組む。
 - オ 「キャリア教育の一層の充実」をめざし、就労希望生の全員就労に取り組む。

2 教職員の役割と責任を明確にして、「高い専門性を有するプロ」をめざそうとする学校 →**職育**

- (1) 個人主義ではなく、学校として一丸となったチーム学校の促進をすすめ、専門性向上に取り組む。
 - ア 学校運営にかかわる会議を一層スリム化する。ICTを活用した校務の効率化・円滑化についても取り組む。
 - イ 業務の見える化を心がけ、わかりやすい指示系統の組織(チーム)をめざし、適切な施設の安全及び危機の管理に一層取り組む。
 - ウ 新しく支援教育に携わる教員へのサポート体制の充実をめざす。
 - エ 全教員が学び続ける教員として外部講師も招き、「主体的、対話的に深く」学びあえる研究授業とその広報・発表の実践に取り組む。

3 例年通りから脱却し風通しの良さをめざし、「次世代育成の種」を植えようとする学校 →**植育**

- (1) 指導支援に関する情報共有や公務推進のための風通しのよい組織風土づくり(メンター・メンティの関係づくりの深化)に取り組む。
 - ア 首席・指導教諭をはじめ、各教職員の適材適所での活用と、通勤方法・承認研修・サービスの適正維持に取り組む。
 - イ 茨木の初任者等自主研修の継続及び毎週定期的な学習会の円滑実施継続に取り組む。
 - ウ P T A や関係機関等と連携し、防災マニュアル(大災害時も含む)の見直しとライフライン断絶(下校困難)時の訓練に取り組む。

4 共生社会の形成に向け、「食」をトピックに保護者・地域から信頼され期待される学校 →**食育**

- (1) 関係部署による校内体制の連携を図りセンター的機能の拡充を行い、「食」をトピックに地域や各校種の学校に積極的な支援と連携を行う。
 - ア 50 周年(H31/9/28)の企画の具体化を進め、外部コンクール(特に「食」をトピックにした)等に積極的応募し、その広報の充実を行う。
 - イ 「学校における医療的ケア実施体制構築事業」(国の委託)を継続し、医療的ケアの課題を明らかにしつつ、その充実のための実践を行う。
 - ウ 最新で適切な情報源としてのHP・ブログの更新や、学校改善充実の取り組み広報を、積極的・継続的に行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 31 年 11 月実施(予定)分]	学校運営協議会からの意見

府立茨木支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「安全・安心」と触れ合おうとする学校 触育	(1) 環境の整備・改善、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロをめざし、 子どもファーストの充実 体制づくりに取り組む。 ア 「授業は教員の要の仕事」との意識で、PDCA サイクルを活用した、授業改善実践に取り組む。 イ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を更に有効に活用できるシステムの実践(カリキュラムマネジメントの確立)に取り組む。 ウ 「次期指導要領」の先行実践をめざし、新たな企画・実践(新スポーツ・文化・言語活動の推進)に取り組む。 エ 「教育環境」(ICT 関連含:タブレット、楽スタ(重力軽減訓練装置)、ロコモーター(電動移動支援教具)等)の充実をめざし、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロに取り組む。 オ 「キャリア教育の一層の充実」をめざし、就労希望生の全員就労に取り組む。	(1) 特に研究部・健康安全部・教務部・自立活動支援部・進路指導部・児童生徒部・通学部・行事部や、アレルギー/医科/給食委員会等が中心に各項目の実践を行う。 ア実践に応用できる授業研究をめざし、研究授業を継続する。又重度障がいのある生徒への対応や、姿勢・運動・摂食・コミュニケーション等の専門性を向上させるため、全校年間研究テーマの設定に取り組む。外部研修への参加等を通し自己研鑽する。学校全体の行事について、新学習指導要領を見据え、検討を深める。 イよりきめ細かい指導に活用できるよう、個別の指導計画、個別の教育支援計画の見直しを通知表と連動し、「 指導と評価の一体化 」をめざす。 ウ外部専門研究機関等と連携しながら楽スタ、タブレット型PCの更なる活用に取り組む。ポッチャをはじめ、新スポーツ等の取組みを充実、 更に文化(アート)を取り入れた外国語(国際理解)・言語(読書)の活動の充実 、又、自作教材(ロコモーター(電動移動支援教具))の充実を図る。 エ不用意・不注意な事故を防止するための意識向上のための行動計画を作成する。 オ校外での見学・実習回数を増やし、社会性、就労意識の向上を図る。清掃・喫茶サービス等の技能や意欲の向上を図る。外部講師を招き「社会に出たときのマナーや心構えについて」の講義を実施する。	ア授業改善の学校教育自己診断による評価肯定率 85%以上(H30 83.3%) イ個別の教育支援計画の様式や記入文章の改善肯定率 70%以上(H30 65.5%) ウ新たな取組み(教育環境充実)の成果について学校診断評価肯定率 70%以上(H30 63.3%) エ不注意な事故の発生ゼロをめざす。スキルアップのための新たな取組みの継続と学校教育自己診断による肯定率維持 100%(H30 91.4%) オ就労希望生の就労 100% 継続 校外見学回数 10%増	
2 教職員の役割と責任を明確にして「高い専門性を有するプロ」をめざそうとする学校 職育	(1) 個人主義ではなく、学校として一丸となった チーム学校の促進 をすすめる、専門性向上に取り組む。 ア 学校運営にかかわる会議を一層スリム化する。ICTを活用した校務の効率化・円滑化についても取り組む。 イ 業務の見える化を心がけ、わかりやすい指示系統の組織(チーム)をめざし、適切な施設の安全及び危機の管理に取り組む。 ウ 新しく支援教育に携わる教員へのサポート体制の充実をめざす。 エ 全教員が学び続ける教員として外部講師も招き、「主体的、対話的に深く」学びあえる研究授業とその広報・発表の実践に取り組む。	(1) 特に進路指導部・研究部・行事部をはじめ、各種委員会等が学校の総力を挙げて、各項目の実践を行う。 ア会議の効率化/ICT(情報モラル・リテラシーを含む)を活用した校務の円滑化の試行実施、会議の持ち方の共通ルールの実施に取り組む。 イ業務の見える化をさらに進めマニュアルの作成や様式の改善、電子データの活用に取り組む。 ウ引継ぎ資料の工夫により指導支援の根拠や理由、きめ細かな配慮事項を各自に伝達できるようにして全体の専門性向上を図る。 エキャリア教育に関するワークショップ形式など教員が、主体的に参加し学ぶ喜びを実感できるような研修を工夫する。	ア校務の円滑化を進めることで、子ども向き合う時間の確保肯定比率 75%以上(H30 70.5%) イわかりやすい業務分担表やマニュアル整備肯定比率 40%(H30 37.1%) ウ校内研修の充実の肯定比率 60%以上(H30 58.3%) エ研究授業・協議数 10%増 (H30 全校研修 17回)	
3 例年通りから脱却し風通しの良さをめざし、「次世代育成の種」を植えようとする学校 植育	(1) 指導支援に関する情報共有や公務推進のための風通しのよい組織風土づくり(メンター・メンティの関係づくりの深化)に取り組む。 ア 首席・指導教諭をはじめ、各教職員の適材適所での活用と、通勤方法・承認研修・サービスの適正維持に取り組む。 イ 茨木の初任者等自主研修の継続及び毎週定期的な学習会の円滑実施継続や、管理職通信とブログによる共有化の継続に取り組む。 ウ PTAや関係機関等と連携し、防災マニュアル(大災害時を含む)の継続的な見直しとライフライン断絶(下校困難)時の研修、訓練に取り組む。	(1) 特に事務・教頭・首席・指導教諭や、各種委員会等が中心に、次の各項目の実践を行う。 ア 服務管理:通勤/研修/勤務の適正化 年に最低1回以上の抜き打ちチェックの継続実施 イ 人事配置:首席/指導教諭の適材適所活用 ・茨木初任自主研修(9/24・12/17 予定)及び毎週定期的な学習会の円滑実施・管理職通信とブログによる共有化促進 ・ 長時間勤務の縮減と会計事務の適正化 ウ 地域・PTAとも連携して震度7以上の大規模災害を想定し、減災に向け備えを充実する。備蓄品の点検と使用体験等を行い、防災意識の向上の取組みを進める。通学バスの新避難マニュアル、マップを作成するとともに、 校内花一杯活動を推進する。	ア 服務管理:通勤/研修/勤務の適正化 (1回以上)実施 イ 人事配置:首席/指導教諭の適材適所活用 ・自主合同研(年2回)等、 ・学習会・通信(ブログ)実践 ・ 有休消化率 10%増 ・ 財務規律に基づく適正執行 ウ 防災意識について学校教育自己診断による肯定率 70%以上(H30 66.2%) 四季を通じて校内に花を植え、「花一杯」活動を実践	
4 共生社会の形成に向け、「食」をトピックに保護者・地域から信頼され期待される学校 食育	(1) 関係部署による校内体制の連携を図り センター的機能の拡充 を行い、地域や各校種の学校に対し積極的な支援と連携を行う。 ア 50周年(H31/9/28)の企画の具体化を進め、外部コンクール等に積極的応募し、その広報の充実を行う。 イ 高度医療の国(委託)事業を継続し、医療的ケアの課題を明らかにしつつ、その充実のための実践を行う。 ウ 最新で適切な情報源としてのHP・ブログの更新や、学校改善充実の取組み広報を、積極的・継続的に行う。	(1) 特に情報部・総務部や、各種委員会等が中心に、次の各項目の実践を行う。 ア 創立50周年(H31/9/28)の具体化と広報に取り組む。ホームページを一層見やすいデザインに改良する。 イ 学び続ける教員に必要な研修を継続し、ポートフォリオの導入、効果測定などを導入して効果的で効率的な研修に改善し、高度医療の校内体制の整備と充実を努める。 ウ 学校紹介パンフレット(カラー版)とともに、地域に根差し、 特に食に関する先進的取組みを積極的・継続的に発信する。	ア 50周年→実施→無事終了 外部コンクールや検定等への参加件数 12件以上 イ 高度医療探究体制づくりの充実 完成年度としてまとめ作成 ウ・HPブログ・コメントの更新件数 10%増 (更新数 H30 約 300回) ・食に関する新企画を実践	

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価(案)

1 めざす学校像

<p>明るく、強く、きよらかに、生き抜く力を培う学校</p> <p>1 安全で児童生徒が安心して学べ、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、積極的に社会に参画する意欲と態度を養う学校</p> <p>2 教職員の役割と責任を明確にして学校組織の活性化を図り、専門性向上体制を整える学校</p> <p>3 「例年通り」から脱却し風通しの良い組織をめざし、次世代育成を積極的に実践する学校</p> <p>4 共生社会の形成に向け、保護者・地域から信頼され期待される学校</p>
--

2 中期的目標

<p>1 安全で児童生徒が安心して学べ、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、積極的に社会に参画する意欲と態度を養う学校</p> <p>○安全で安心な学校づくりに取り組むとともに、個々の生徒の「つきたい力」を実現できる取組みを推進する。</p> <p>ア 「授業は教員の要の仕事」との意識で、PDCA サイクルを活用した、授業改善実践に取り組む。</p> <p>イ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を更に有効に活用できるシステムの実践(カリキュラムマネジメントの確立)に取り組む。</p> <p>ウ 「次期指導要領」の先行実践をめざし、新たな企画・実践(新スポーツ・文化・言語活動の推進)に取り組む。</p> <p>エ 「教育環境」(ICT 関連含:タブレット、楽スタ(重力軽減訓練装置)、モニター(電動移動支援教具)等)の充実をめざし、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロに取り組む。</p> <p>オ 「キャリア教育の一層の充実」をめざし、就労希望生の全員就労に取り組む。</p>
<p>2 教職員の役割と責任を明確にして学校組織の活性化を図り、専門性向上体制を整える学校</p> <p>○教職員の業務の可視化、効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保するとともに各教員の専門性向上に取り組む。</p> <p>ア 学校運営にかかわる会議を一層スリム化する。ICT を活用した校務の効率化・円滑化についても取り組む。</p> <p>イ 業務の見える化を心がけ、わかりやすい指示系統の組織(チーム)をめざし、適切な施設の安全及び危機の管理に一層取り組む。</p> <p>ウ 新しく支援教育に携わる教員へのサポート体制の充実をめざす。</p> <p>エ 全教員が学び続ける教員として外部講師も招き、「主体的、対話的に深く」学びあえる研究授業とその広報・発表の実践に取り組む。</p>
<p>3 「例年通り」から脱却し風通しの良い組織をめざし、次世代育成を積極的に実践する学校</p> <p>○指導支援に関する情報共有や校務推進のための風通しのよい組織づくりに取り組む。</p> <p>ア 首席・指導教諭をはじめ、各教職員の適材適所での活用と、通勤方法・承認研修・サービスの適正維持に取り組む。</p> <p>イ 茨木の初任者等自主研修の継続及び毎週定期的な学習会の円滑実施継続に取り組む。</p> <p>ウ P T A や関係機関等と連携し、防災マニュアル(大災害時も含む)の見直しとライフライン断絶(下校困難)時の訓練に取り組む。</p>
<p>4 共生社会の形成に向け、保護者・地域から信頼され期待される学校</p> <p>○校内体制の構築と地域のセンター的機能の充実を図り、地域の学校に対し積極的な支援と連携を行う。</p> <p>ア 50 周年(H31/9/28)の企画の具体化を進め、外部コンクール(特に「食」をトピックにした)等に積極的応募し、その広報の充実を行う。</p> <p>イ 「学校における医療的ケア実施体制構築事業」(国の委託)を継続し、医療的ケアの課題を明らかにしつつ、その充実のための実践を行う。</p> <p>ウ 最新で適切な情報源としての HP ・ブログの更新や、学校改善充実の取組み広報を、積極的・継続的に行う。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見
	【第 1 回 年月日】

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>限に伸ばし、積極的に社会に参画する意欲と態度を養う学校</p>	<p>1 安全で児童生徒が安心して学べ、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、積極的に社会に参画する意欲と態度を養う学校</p> <p>○安全で安心な学校づくりに取り組むとともに、個々の生徒の「つきたい力」を実現できる取組みを推進する。</p> <p>ア PDCA サイクルに基づき、個々の生徒の社会的自立をめざした授業づくりに取り組む。</p> <p>イ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を更に有効に活用できるシステムの確立に取り組む。</p> <p>ウ 「新学習指導要領」に基づいた教育課程を編成するとともに、「キャリア教育の充実」「自立活動の充実」をめざす。</p> <p>エ 学習環境の整備・改善、教職員の危機管理意識を高め、不用意・不注意な事故ゼロをめざし、安全で安心な学校づくりに取り組む。</p> <p>オ 「学校における医療的ケア実施体制構築事業」を継続し、医療的ケアの課題を明らかにしつつ、その充実のための実践を行う。</p>	<p>ア 個々の生徒のニーズを十分に把握し、進路実現をめざすうえで必要な「力」をつける授業を実践する。</p> <p>イ 通知票と個別の指導計画の一体化における問題点を修正しながら、更に個別の教育支援計画とのリンクを明確にし、きめ細かな支援体制の構築を進める。</p> <p>ウ 新学習指導要領に基づいたシラバスを作成するとともに、各類型に応じた教育課程の整理をすすめる。また、キャリア教育、自立活動の位置づけを普通課程、生活課程ともに明確にする。また、就労希望生徒の卒業後、3 年間定着率 100% をめざす。</p> <p>エ 不用意・不注意な事故を防止するための意識向上のための行動計画の推進および定期的な見直し、意識づけを進める。</p> <p>オ 高度医療的ケアに関する情報の収集と本校における体制づくりの仕上げと今後の課題について検討を更に進めていく。個々のマニュアル作りと合わせて、本校における高度医療的ケアに関するマニュアルを完成させる。</p>	<p>ア 授業力向上の学校教育自己診断による評価肯定比率 85%以上(H30 83.8%教)【教】</p> <p>イ 個別の教育支援計画等の活用学校教育自己診断による評価肯定比率 70%以上(H30 65.5%教)【教】</p> <p>ウ 新学習指導要領に基づく教育課程の編成 学校教育自己診断による評価肯定比率 70%以上(H30 63.3%教)【教】</p> <p>エ 不注意な事故の発生ゼロをめざす。学校教育自己診断による評価肯定比率 100%【教】</p> <p>オ 高度医療的ケアに関する校内の基本的マニュアルの作成と校内体制の確立 (2 学期末)</p>	

府立茨木支援学校

<p>2 職の活性化を図り、専門性向上体制を整える学校</p>	<p>○教職員の業務の可視化、効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保するとともに各教員の専門性向上に取り組む。 ア 学校運営にかかわる会議をスリム化するとともに業務の可視化を心がけ、ICT等を活用した校務の効率化・円滑化を推進する。 イ 首席・指導教諭をはじめ、各教職員の適材適所での活用と、わかりやすい指示系統の組織づくりをめざす。 ウエ 授業改善のための公開授業を実施するとともに、外部講師を招へいして継続的な校内研修を実施する。</p>	<p>ア各校務分掌の業務の洗い出しと整理を進める。重複業務や係の統合等を進めるとともに、会議の進め方等のルールを策定していく。また、引き続き定時退庁の呼びかけを推進する。</p> <p>イ首席の業務の更なる明確化部門制を推進し、各学部主事を中心とした学部内業務と校務分掌における業務の平準化を図ることによって個々の教員の業務を明確にする。</p> <p>ウエ 2019年度2学期以降に公開授業日を設け、他校からの見学を募る。また、外部講師を招へいして、年間を通じて授業力向上に関する研修（指導助言）等を実施する。特別支援教育の特徴的な指導法（ムーブメント、構造化、AAC等）の研究を進める。</p>	<p>ア校務の円滑化を進めることで、子どもと向き合う時間の確保 学校教育自己診断評価肯定比率 75%以上 (H30 70.5%教)【教】</p> <p>イわかりやすい業務分担 学校教育自己診断による評価肯定比率 45%以上 (H30 37.1%教)【教】</p> <p>ウエ授業力の向上 学校教育自己診断による評価肯定比率 70%以上 (H30 58.3%教)【教】</p>	
<p>3 めざし、次世代育成を積極的に実践する学校</p>	<p>○指導支援に関する情報共有や校務推進のための風通しのよい組織づくりに取り組む。 ア 初めて支援教育に携わる教員や経験の少ない教員へのサポート体制の充実を図るとともに、学校全体の専門性向上をめざす。 イ 個々の教職員が公務員としての自覚を持って行動できる体制づくりのために、服務（通勤・出張・研修）の適正維持に取り組む。 ウ PTAや関係機関等と連携し、防災計画（BCPも含む）の継続的な見直しと大規模災害（下校困難）時の研修、訓練に取り組む。</p>	<p>ア初任期等の教員への定期的な校内研修の実施と研究授業の実施 アドバンス研修、10年経験者研修受講者の公開授業の推進と研究協議への参加の促進（経験の少ない教員中心に）。高等部の各課程における専門性の向上（普通課程…自立活動等、生活課程…コミュニケーション等、共通…アセスメント、SST等） イ年度当初における教職員の服務についての確認事項をはじめ、定期的な通勤方法の確認、出張等の適正な処理の注意喚起を行い、個々の教職員の服務に関する意識を高める。</p> <p>ウこれまで経験した災害における対応を教訓に、より安全で安心な防災・減災ができるように、PTA・地域と連携を進め、避難場所確保や引継ぎについて対応を進める。また、高等部自力通学生徒の安否確認の方法を確実化していく。</p>	<p>ア専門性の向上 学校教育自己診断による評価肯定比率 65%以上 (H30 58.3%教)【教】 校内研修3回以上 公開・研究授業10回以上</p> <p>イ通勤状況調査（年2回） 服務に関する注意喚起（随時）</p> <p>ウ防災意識について 学校教育自己診断による評価肯定比率 70%以上 (H30 66.2%教)【教・保】 年度中、マニュアル更新</p>	
<p>4 ら信頼され期待される学校</p>	<p>○校内体制の構築と地域のセンター的機能の充実を図り、地域の学校に対し積極的な支援と連携を行う。 ア 最新で適切な情報源としての学校HP・ブログの更新や、学校の取組みに関する広報を、積極的・継続的に行う。 イ 地域連携推進事業三島ブロック幹事校として、積極的に情報を発信し、地域の特別支援教育力の向上をめざす。 ウ 地域や保護者と双方向の連携を行い、地域における居場所づくりを生徒が在校中から支援していく。</p>	<p>ア学校HPの定期的な更新や学校ブログへの情報UPの頻度を上げることにより、学校の取組みを外部に周知していく。また、他学部の取組みを保護者に周知していくことにより、全校的な様子を広報する。</p> <p>イ三島ブロック内におけるリーディングスタッフ、リーディングチームの研修をバックアップし、訪問相談がよりスムーズに実施できる体制を地域に提言していく。また、茨木地区の自主研修会を継続して実施していく。</p> <p>ウ関係機関と連携しながら、居住地区における社会資源に関して早い段階から、本人、保護者に情報提供していく。また、余暇活動の充実を図るために、ポッチャ、サッカー、バスケットボール等の取組みを更に拡充させる（高等部）。</p>	<p>ア学校HP等広報活動について 学校教育自己診断による評価肯定比率 80% (H30 38.4%教)【教・保】 児童生徒ブログ、月10回</p> <p>イ地域支援事業に関する研修会への本校からの新規参加3名以上</p> <p>ウ課外活動の参加者 10%増 (H30 15名)</p>	